



俳句を苦しむ

小料理屋での句会

二カ月に一度、小料理屋で開かれる句会に参加して間もなく三年になる。全く上達しない。

そもそも俳句に関心があつたわけではない。「小料理屋でお酒を飲みながら」という言葉にひかれて参加した。十年以上の歴史を持つ句会で、現在、男性六人、女性五人の十一人がメンバーだ。

文化教室で俳句を勉強している知人に「宗匠と呼んでいる人の名前を元市長さん、詩

前回は久行保徳さん」と言ったらびつくりされた。「その方は現代俳句協会の理事で、山口県の俳句界を代表する方ですよ」

誘われた時、そんなことは一言もなかった。まさに恐いもの知らずで句会に入れてもらったのである。宗匠も私と同じように会費を払っておられるので、そんな偉い方とは全く知らなかった。ほかのメンバーも、

前もって兼題二句、自由題一句の計三句を提出するのだが、下手なら下手なりに良い俳句を詠む努力をすれば

よいのだが、提出直前に三十分ばかり考えて詠むようでは、上達するわけがないと自分でも思う。

それでも合評するころは酒もまわって「これはキレイ」と言われれば「いや、イボジ」ですと言ったりしていたが、最近少し自覚して静かにしていると誘ってくれた方は「藤屋さん、体調が悪いの」と

と心配して下さる。正直に言えば、五・七・五のたつた十七文字で、しかもその中に季語なるものを入れるなど無理な話である。毒舌家の私としては川柳か、せめて五・七・五・七・七の五句体の短歌の方が向いていると思う。誘って下さった方に「全く上達しないので、やめたい」と言いかけたら「私なん

人、空手の第一人者、画家、元高専の教授、中学の先生、シャンソンを歌わせれば第一人者など各分野で活躍されている人だ。

私としては「俳句を楽しむ」という気持ちにはなれず「俳句を苦しむ」というのが正直なところだが、俳句はともかく、この年齢になつて新しい人と知り合えることがうれし

それでも合評するころは酒もまわって「これはキレイ」と言われれば「いや、イボジ」ですと言ったりしていたが、最近少し自覚して静かにしていると誘ってくれた方は「藤屋さん、体調が悪いの」と

と心配して下さる。正直に言えば、五・七・五のたつた十七文字で、しかもその中に季語なるものを入れるなど無理な話である。毒舌家の私としては川柳か、せめて五・七・五・七・七の五句体の短歌の方が向いていると思う。誘って下さった方に「全く上達しないので、やめたい」と言いかけたら「私なん

かもう十年以上しているのに」と一喝されてしまった。

「現代俳句やまぐち」という機関誌に久行宗匠が書かれた文に次のようなものがある。「最近参加された放送関係の出身Fさんの物の見方、切り取り方は極めてユニーク。原稿を読んで伝達することが仕事であつたアナウンサー経験のある方で、ジョークにはジョークで素早く返す業をお持ちで、さわやかである」

Fさんとは間違いない私のことだ。何も知らぬ者が酒を飲んで対等に横着な発言をした

先日、十日間の黙想会に参加した時、神のことを考えず俳句について考えていた。そこで詠んだ句

「祈りても 十字架 重く 蟬時雨」

九月の兼題は「栗」と「にぎり酒」。上手に詠もうとせず、季語を見つめることから始めよう。

九月の兼題は「栗」と「にぎり酒」。上手に詠もうとせず、季語を見つめることから始めよう。

九月の兼題は「栗」と「にぎり酒」。上手に詠もうとせず、季語を見つめることから始めよう。

九月の兼題は「栗」と「にぎり酒」。上手に詠もうとせず、季語を見つめることから始めよう。



小料理屋での句会



久行保徳氏主宰の句誌「草炎」